巴里サント・ゼニネーブの「イ・ヒン」の刻名

私が先年巴里に留學のとき、佛蘭西の國士の遺骸を斂めた「パンテオン」と云ふ塔の近傍に暫時寓して居つた。其の傍には「ソルボンヌ」大學や「コレージュ・ド・フランス」など云ふ學校があるが、其の學校の上に當りて、巴里中の最も爽塏な部分に、「サント・ゼニネーブ」と云つて、巴里市の守本尊の名を冒した圖書館がある。其の正面と側面とには、世界の中で昔から學術の進歩に貢獻した名士が綺羅星のごとく刻まれてあるから、試に日本の學者の名が出てないかと仰ぎ見たが一人も出て居ない。段々と正面から側面の方に廻つて見ると、忽ち「イ・ヒン」(i-hsing)とあつた。「イ・ヒン」とは一行の官話音である。「ラブラース」や「ニュートン」などゝ、肩を並べて一行禪師の名が輝いて居る。私はこれを見て、天涯萬里の外に、一人の故舊と遇つた心地がした。同時に人間といふものは、孰れの國に生れ孰れの時代に生れても、刻苦して宗教、學術に貢獻して置きさへすれば、假令ひ其の同時代の人々から、かれこれ云はれても又疏外せられても、冷遇せられても、千載の下いつしか知己があるものと感じた次第である。——榊亮三郎博士「大師の時代」(弘法大師と日本文化所收)より